

第3回 長岡版広域道路ビジョン懇談会 議 事 録

■日 時：平成30年12月19日（水） 15:00～16:30

■場 所：アオーレ長岡 4階大会議室

■議事次第

1. 開 会
 2. 挨拶
 3. 委員の紹介
 4. 議 事
 - (1) 長岡版広域道路ビジョン 策定までの流れ
 - (2) 第2回懇談会の振り返り
 - (3) 新たな交通軸の夢、ロマン
 - (4) 軸の強化に向けた目標
 - ①【会津地方へつながる連携軸】～歴史的つながり、夢も膨らむ広域ルート～
 - ②【信濃川左岸の南北軸】～中越の魅力・宝を全国、世界へ～
 - ③【中越地域の一体性を強化する東西軸】～越後三山から日本海までを繋ぐ広域ルート～
 - ④【東西市街地の一体化】～中越圏域全体の発展のために～
 - ⑤ソフト面での目標
 5. その他
 - (1) 冊子構成案
 - (2) シンポジウムについて
 6. 閉 会
- ※懇談会資料は別紙のとおり

■懇談会の様子



■委員発言概要

●軸の強化に向けた目標

【委員】

- ・産業面では、柏崎でも、小千谷でも、単独で完結できない時代に既に入っている。ものづくりにおいて中越地域でも連携が必要になってくる中で、このような軸を産業面の観点からもしっかり構築していく必要がある。
- ・北陸新幹線の開通により、柏崎から関西方面へのアクセスが時間的な面で悪くなった。お客様からは新潟空港をもっと使えないのかという話題が出てきている。LCCの就航も始まったため、中越地域から新潟空港へのアクセスをしっかりとしたものにし、産業に結び付けていく視点が必要。

【委員】

- ・小千谷もものづくりのまちであるが、倉庫群が無いと、長岡の運送会社の倉庫に在庫として一旦納め、そこから関東圏へ発送している現状である。信濃川左岸の南北軸に関係するが、ものづくりの現場から倉庫、そこから高速道路への流れをつくり、現場と関東圏、関西圏を結ぶ道路をきちんと作ることがものづくりにとって一番大事なこと。
- ・新潟県は消雪パイプの設置により冬でも通行しやすいが、地下水低下により非常に節水しなければならない状況でもある。今後の除雪をどうしていくかを考えることは重要である。
- ・東西市街地の一体化の橋で東西を結ぶという事に関して、現在橋梁部の除雪が悪いように感じる。消雪パイプの無い場所もちろん、川風による凍結で路面状況が良くない状況が毎年みられる。橋の上は横に避けたり、他の道に迂回するといった事ができないため、橋梁部の除雪もしっかりと考えてもらいたい。

【委員】

- ・八十里越は昭和61年に事業化したとのことで、壮大な時間がかかる事業であることがわかった。今回の軸の強化に向けた目標も年数がかかる事業であると感じていて、この先の時代背景に合わせて変わっていくかもしれないが、先の百年を見据えて考えていくことはすごく良いと思う。
- ・一方で、百年先を見据えた考えと、今直面している問題を解決する二通りで考えていくことが重要であると考えており、除雪の自動化や自動運転技術の活用など、近い将来実現が見えているものも目標とすることは非常に重要である。
- ・人口流出が止まらない中で、10年20年後をひとつ目安として考えていかなければならないと感じており、若い世代が長岡に魅力を持てるビジョンを策定することが、地域の活性化につながると期待する。

【委員】

- ・会津連携軸に関して、現在会津へ行くには新潟まで北上し、そこから東の会津方面へ向かうルートであるが、八十里越をベースとして会津とつながる軸は非常に魅力を感じる。
- ・国交省が2050年には全国の約7割の自治体で人口が半減すると2011年2月に公表しており、まだ先だと思っていたらもう30年先まで迫っている。先週もゼミの学生たちにこの状況を伝え、卒業研究に向けて問題意識を持ってもらったところであるが、人口減少が拡大していく日本の全体像の中で、このようなダイナミックな軸を設定して動いていくことは非常に重要である。

【委員】

- ・会津軸に関して、会津へ直線的に行くことができるのは非常に大切だと思う。
- ・信濃川左岸の南北軸について、新潟へ向うには着色してある国道116号の他に国道8号や国道の間の農道を使っても行ける。その中でやはり国道8号の強化も必要に感じるので、太線にしても良いのではないかと考える。また、国道116号と国道8号を上手く結ぶといったことも必要ではないかと考える。ただ、この意見はビジョンの範囲外であれば特に指摘するものではないがいかがか。全体的に納得のいくまとめになっている。

→【事務局】国道8号は国の直轄国道ということで、現在白根バイパスをはじめ国の計画に沿って事業が進められているため、当ビジョンの範囲には含まれていない。しかし、当然ながら国道8号、116号、高速道路はいずれも新潟圏域とを結ぶ重要な軸としてとらえているため、線の表現などご意見をふまえて整理したい。

【委員】

- ・昨年の大雪の影響で自分の子供の園のバスが走れず困ったことがあったり、介護が必要な高齢者のデイサービスの送迎に苦慮した話を伺う機会もあったため、除雪体制の維持・強化という目標が嬉しく感じる。除雪の後継者不足に対する除雪自動運転技術の導入といったソフト面の充実により、長岡は人に優しい街なんだと、今小学校に通う子供と一緒に感じながら子育てしていきたい。

【委員】

- ・栃尾出身として、八十里越が栃尾につながることは栃尾の発展に欠かせない要素であり、非常にロマンを感じ魅力的である。
- ・人口減少社会に対してこれから様々な活動をしていくには、地域の枠を超えた交流や広域の連携が必要になってくるが、だからこそ今までより個の力や役割が重要になってくると感じる。様々な地域と広い範囲で交流しながら発展していく中で、人材育成や郷土愛の醸成につながり、長岡市の掲げる米百俵の精神に則った道になると感じる。
- ・道を作るうえで、外部から来た人のためにも雪の対策は必要に感じる。八十里越ルートを通すのであれば、誰でもいつでも安心して運転することができ、災害時のリダンダンシーの観点からも、除雪の自動化といった雪対策は必要である。
- ・一方、雪の壁を観光資源として活用し、外国人にも人気の黒部アルペンルートのような例もある。雪を資源として活用していくことを模索しても良いのではないかと。

【委員】

- ・会津連携軸に関して、第1回から毎回発言しているが、会津さらに日光につながることで非常に夢が広がる。守門の辺りに非常に綺麗なブナ林があることが最近分かった。栃尾には油揚げもあるし、鳥獣被害を逆手に取ってジビエなども展開できるため、観光資源の発掘に期待ができる。
- ・東西の一体化について壮大な夢を語らせてもらおうと、新潟駅のように長岡駅も立体化し、大手通をまっすぐ通せたら素晴らしい。それくらいの発想を持ってないものかなと思う。
- ・道路はまちづくりの基本。最大限の投資をしていい代物だと思う。
- ・道路を楽しんでもらう要素も必要に感じていて、雪国ではどうかという意見もあるだろうが、ヨーロッパでよく見られるラウンドアバウトを検討しても良いと思う。
- ・冬でも安心して通れる道路は多く意見がでていますが、消雪パイプも節水や地盤沈下といった問題があるとすると、ロードヒーティングといったことも考えていく必要がある。原発停止により値上が

りした電気料の収益を、ロードヒーティングの整備に活用できないものかと思う。橋の除雪強化にもつながるのではないか。

- ・のびのび子作りができて育てられる町という点にも結び付けていただきたい。

【委員】

- ・県内外を結ぶということで、将来に向けてすばらしい構想だと感じる。特に、信濃川東西を結ぶ橋を中心にして、それぞれの連携軸を結ぶということがすばらしい。
- ・このビジョンの軸は四季を通じて活用されることを願うため、やはり冬も安心して通れることが不可欠。国道、県道、市道が交わる場所の除雪の連携がうまく出来ていない箇所が毎年見受けられるため、除雪作業や迂回指示等について各道路管理者の連携を上手くしていただきたい。
- ・道路を使って観光施設などをPRするときに、外部に発信するだけでなく、市民も活用し、みんなで魅力を分かち合おうというPRが必要ではないかと感じる。

【委員】

- ・ソフト面の目標に関して、マイカーと物流を主に考えられていて、若者に対してはこの目標で良いと思う。一方で高齢者の観光需要も高まってきているので、高齢者が例えば長岡と会津を行き来する時だったり様々な観光の際、よりソフト的な施策として、移動サービスの強化や魅力のアップといったことを取り入れても良いと感じる。

【委員】

- ・普通計画をつくるときの軸というのは非常に抽象的な軸線でしか考えないが、このビジョンではある拠点と拠点を結びつける際、その途中が抜けているから、その部分がつながるとものすごく便利になるということを表している。そのため、軸の結節点であったり、冒頭意見にでた新潟空港、更には十日町方面にも拠点をもう少し書き込んだり強調されると、連携軸の意図がはっきりしてくると感じる。
- ・観光に関して、インバウンドの多くはレンタカーでなく観光バスで移動することが多いため、それなりの規格の道路がネットワークになってなければならない。そのネットワークの視点をもう少し強調してほしい。

また、これまで観光面での魅力で移動のしやすさということにはふれられてきたが、実は移動そのものが観光になるという観点が抜けている。一昔前国土交通省がシーニックバイウェイということで流行らそうとし、最近は一トーンダウンしているが、移動そのものが良い景観、観光資源になるという考え方。スイスの鉄道などは移動そのものが楽しみであるように、只見線を含む会津軸や、長岡から魚沼にぬける国道 352 号、小千谷から柏崎などのルートは移動しているときに非常に景色の良い場所を通ると感じる。

移動を観光にすることは首都圏ではできない施策、人口が減るから道路はいらないという考え方がなりがちだが、今後日本が観光戦略を進めていくうえで、道路は景観資源の一部だという価値観を加えることで、道路をむやみに作るのではないということが強調できる。

【委員】

- ・ 柏崎原発の有事の際の避難路として、柏崎・堀之内・小出間のルート整備（特に冬期間）が必要。
- ・ 観光用道路として国道 17 号（特に小千谷、川口、魚沼）の整備が必要。冬期間渋滞がしばしば発生し、観光客はこれを避けるために湯沢より先長岡方面にはなかなか来ない。
- ・ 魚沼から福島へのルート国道 252 号の冬期通行止めは、避難経路として利用できるよう早急に対応してほしい。
- ・ 夢の話として、既存の道路整備に限界があるのなら、魚沼から只見町までを新たにトンネルで接続してはどうか。自動車とトロリーバスを並行して走らせるなど、地上では不可能な安全性の高い科学実験が可能な、他に類を見ないトンネルを開通させることで、地域経済・観光産業等に大きく影響すると考える。

◎今後の予定

【事務局】

2月にパブリックコメントとシンポジウムを実施し、そこから収集した意見もビジョンに反映し、次回最終回で「長岡版広域道路ビジョン」の最終版を策定していきたい。

以 上